

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21 年 6 月 24 日 開始 10時 30 分 ～ 終了 15 時 30 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ニチイのほほえみ倉光 広島県
評価調査員の氏名	氏 名 延平 和子 氏 名 羽原 高代
事業所側対応者	職 名 管理者 氏 名 坂本 昭恵 ヒアリングを行った職員数 (2) 人

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

グループホーム [ニチイのほほえみ倉光] 1, 調査報告概要表

広島県認定地域密着型サービス
外部評価機関 特定非営利活動法人 あしすと

[評価実施概要]

事業所番号	3491500462
法人名	株式会社 ニチイのほほえみ
事業所名	グループホーム ニチイのほほえみ倉光
所在地	福山市駅家町倉光23-1 (電 話) 084-977-1321
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 21 年 6 月 24 日

[情報提供票より] 21 年 5 月 11 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 19 年 11 月 1 日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計		18	人
職員数	20 人	常勤	14 人	非常勤	6 人 常勤換算 11.6 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	60000 円	その他の経費 (月額)	実費 円
敷 金	有 (円)	無	
申込金の有無 (入居一時金含む)	有 60000 円 入居金120000円	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 円 夕食 円 または1日当たり 実費 円	昼食 円 おやつ 円	

(4) 利用者の概要 (5 月 11 日現在)

利用者人数	15 名	男性	5 名	女性	10 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢 平均	80 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さくらの丘クリニック・甲斐歯科医院・米田耳鼻咽喉科・ふるかど眼科
---------	----------------------------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴] 平成 21 年 7 月 20 日

市の北部に位置し、立地条件も良く便利さの中にも住みやすい環境の中で、利用者がその人らしく過ごされている。管理者、職員が真心と笑顔の絶えない事業所となるよう日々取組まれ、常に機能維持に努め、自立に向けたケアに努めている。家庭的な環境のもとで、利用者一人ひとりの心に寄り添いながら、細やかな言葉かけや尊厳を大切にサポートがされている。季節感が味わえるようリビングから続くウッドデッキには朝顔やゴーヤなどが植えてあり、職員と利用者が共に育てられ、家庭的で暖かみの感じられる事業所である。職員同士もチームワークが良く、家族との信頼関係も深められている。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4) 前回の外部評価の改善点についてはできるものから改善されていた。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 自己評価について意義は会議の中で話をされているが十分とはいえない。リーダーの意見を基に管理者が作成された。今後における取り組みは全職員が理解できるよう周知し、職員の意見を反映したものとなるよう取り組みに期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 定期的に開催し、事業所の状況報告や行政の説明会などまた、相談や勉強会なども行い、様々な議題を基に有意義な会議となっている。その中で出された意見をサービスの向上に繋げるよう努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 意見や要望は管理者に言ってもらえるよう家族に説明している。言いにくい場合は法人のコールセンターがある。意見箱の設置があり、その中の意見要望は会議において職員間で話し合い周知改善がされ家族に納得してもらうよう努めそれらを基に運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 散歩やお買い物などで顔なじみになるよう努め、積極的に地域との交流を図るよう努めている。町内会には町内会の仕組みで入会はしていないが運営推進会議には出席してもらっている為、その中で交流が図れる取り組みに努めている。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念に地域密着型サービスとしての理念が盛り込まれており、「ほほえみ倉光」として独自の理念を職員とともに作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム会議やカンファレンス等で共有するよう努め、理念の実践に向けミーティングの中でも取り組むよう全職員に周知している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には町内会の仕組みで入会はしていないが運営推進会議には出席してもらっている為、その中で交流が図れる取り組みに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価と外部評価について意義は会議の中で話されている。自己評価は管理者が作成された。前回の外部評価の改善点はできるものから改善されていた。	○	今後における取り組みは全職員が理解できるよう周知し、職員の意見を反映したものとなるよう取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回各メンバー参加のもと、事業所の状況報告や行政の説明会など様々な議題を基に有意義な会議となっている。その中で出された意見をサービスの向上に繋げるよう努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	電話での相談や介護保険課に出向き、情報収集をするなど顔なじみの関係作りに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りは2カ月に1回送付している。体調変化があれば必要に応じてその都度電話等で連絡をしている。月2回の往診の結果についても連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は管理者に言ってもらえるよう家族に説明している。言いにくい場合は法人のコールセンターがあり、意見箱の設置もされている。その中の意見要望は会議において職員間で話し合い周知改善がされ家族に納得してもらうよう努めそれらを基に運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での異動はあるが、普段からユニット間の交流が盛んで利用者のダメージはない。運営推進会議の中で異動についての報告も行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はミーティングで「虐待について」「認知症の理解」等ケア面や医療面について行われている。また職員の経験により働きながら学ぶ場面もある。外部研修は職員に情報を提供し、出席した研修の内容はミーティングや会議の中で職員に周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接した小規模多機能事業所と夏祭り等の行事を合同で行い、利用者とともに交流が図られている。その他の地域の事業所と管理者同士の交流もあり、それらの活動を通して質の向上に繋げている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、利用者と面談をした内容を基に事業所内で管理者、リーダー、職員で判定会を開き、法人で承諾し利用開始となっている。お試し利用はないが、利用開始されたら職員が密に関わり、事業所の雰囲気に馴染んでもらえるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族のように接することに努め、喜怒哀楽を共有するようコミュニケーションづくりをしている。野菜作り等教わる場面も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を表出される方はほとんどいないが、職員は細やかに声かけを行い把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見を基にカンファレンス(管理者、リーダー、職員)を開催しケアマネジャーが作成されている。作成された計画は家族に承諾を得るとともに、職員全員が周知できるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回の見直しを行っている。状態に変化があれば必要な関係者と医師の指示を基に新たな計画をその都度作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望や要望を踏まえた支援を行っている。利用者の希望で結婚式へ出席同行など柔軟に行われている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援は基本家族でもらっている。協力医療機関の往診が2週間に1回あり、耳鼻科、眼科、歯科もその都度あり安心した医療体制の確保がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の思いをくみ取り、職員全員で方針に基づいた共有がされている。管理者は事業所での事例を基に職員の思いを聞き、不安を取り除くよう努めている。医師との連携が密であり、夜間体制も万全である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
１．その人らしい暮らしの支援					
(１) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーへの配慮に努め、トイレ誘導等は小声で言うよう心がけている。職員間でも言葉かけはお互い注意しあい、利用者の尊厳を重視している。個人記録の取り扱いも配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ規則正しい生活リズムを基本にしながらも、無理強いせず個々のペースを大切にしている。利用者に応じた声かけを行いその人らしい暮らしとなるよう努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じ、準備や片づけなどは声かけで手伝ってもらっている。職員は介助の必要な方のそばで食を促すような声かけをし、全体にも気を配り楽しい雰囲気となるよう努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午前中の中の入浴となっているが、失禁等で即シャワー浴をされることもあり、清潔保持に努めている。拒否のある方にも週3回は入浴してもらえるよう声かけで工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たたみ、園芸、巻寿司やおはぎ作りなど役割をもち率先してされる方もいる。ドリルやジグソーパズル、花札等楽しみ事の支援がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近くの公園へ散歩に出かけ、気分転換に努めている。季節に応じ、花見や動物園に出かけたり、近くに外食したり利用者がリフレッシュできる機会が多い。また年1回遠出のバス旅行などもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に施錠はされていない。見守りで把握に努めるとともに、ユニットごとのドアにはチャイムがあり、出入りの確認ができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練は実施している。AEDの設置もし、3ヶ月に1回自主点検を行っている。避難場所の周知も徹底している。	○	あらゆる災害時において地域の協力は不可欠であるため、運営推進会議において協力が得られるような働きかけをし、地域との協力体制の強化に努められるよう期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスや組み合わせに配慮し献立をたてている。病状や嚥下状態を考慮し、おかゆや刻み食の対応がある。また体重の増減に合わせ栄養の調整を行っている。水分は概ね1300cc程度摂取に努め、記録を取り把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の感じられる花や飾り付けがあり不快なおいや採光にも配慮し、落ち着いて過ごせる空間である。リビングに続くウッドデッキには朝顔やゴーヤが植えられ季節を味わえる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の物はすべて利用者の持ち込みである為、それぞれの使い慣れたものがあり、居心地良く生活できる空間となっている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ニチイのほほえみ倉光（ユニットはなみずき）

評価年月日 2009 年 6 月 24 日

記入年月日 2009 年 5 月 7 日

記入者 管理者 氏名 坂 本 昭 恵

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている ホーム独自の理念をスタッフで考えて決めている 「お客様には真心を笑顔の耐えないホーム」		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる ホーム内に掲示し意識付けをしている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる 契約書に記載してある会社全体としての理念「高齢者の尊厳と自由を守る」は契約時、家族に説明している		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている 散歩に出たりして、挨拶をしたり利用者の方の顔を覚えて頂いたりしている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている 積極的に地域の商店を利用したり運営推進会議などでコミュニケーションを図っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などで民生委員の方から地域の高齢者の方の情報やお困りごとなど情報交換できている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果はホーム会議上でスタッフに伝え改善すべき所は話し合い少しでも改善するように努力している		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度 開催し報告・相談・話し合いをし取り入れるようにしている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明な点などある時など相談している		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者として必要と思われる家族には情報提供している	○	不定期でもいいので勉強をする機会をもちたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で議題にあげ勉強会をし意識を統一している 介護者側の理性の問題なので精神的な部分についても管理者から説明し全員で考える機会をもっている	○	繰り返し会議の議題にあげていく

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	認知症が重度の方の思いをどのように汲み取っていくかが課題
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○	面会時や電話で状況はお伝えしている
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	○	介護業界全体が低賃金の為、離職率が高い仕事内容に見合った待遇になる様会社に訴えていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修は順番に受講している 外部の研修情報は掲示している	○	外部の研修など受講料が高い場合が多いので難しい面もある
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接の施設と勉強会など一緒にしている		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	正社員には年に3日リフレッシュ休暇が設けてある不定期だがホーム全体やユニット毎に食事会をしている ストレス解消法などホーム会議で議題にあげている	○	継続し議題にあげていく、また労働組合でも色々な行事を提案している
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	当日のリーダーを決め責任のある立場におく等している 待遇面ではキャリアアップ制度を実施している	○	キャリアアップ制度の導入で公平さに欠ける事案もある為。会社に交渉していく
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症対応型なので本人というより家族からの相談が多いが本人の不安な思いは入居後しっかりと傾聴している	○	思いを伝えるににくい方もいらっしゃる為工夫が必要
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いや悩みなど話して頂ける様にアセスメント時、十分な時間をとっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅と施設で迷っていらっしゃる家族にはケアマネとも相談し本人と家族にとってどのサービスが一番良いのか話し合い決めている	○	グループホームがその方に適している施設なのか検討している
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居という事に抵抗がある方もいらっしゃるので入院という説明をしている（家族希望時）		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話の中で生い立ちをお聞きしたり昔の思い出の想いを教えて頂いたりしている 利用者の方から学ぶべき所はたくさんある		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	相談・状況報告は常時行い家族と一緒にケアする様に心掛けている	○	精神面のケアは職員だけでは難しい面もあるので今後も家族と協力しあいケアしていきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	両者の仲介役になれる様努力している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の規制は設けていない 利用者あての電話も取り次いでいる	○	入居者の方から家族に電話を掛けたい希望がある時など家族に負担にならない様配慮しながら掛けて頂いている
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相性が合わない方など座席を配慮している	○	入居者同士のトラブルなど職員が間に入り対応している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	お見かけして時など挨拶をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	危険なこと以外は本人の意向に添うようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設なので馴染みの生活という訳にはいかないが趣味や嗜好を把握しケアしている	○	家具など自宅で使われていた馴染みの物を持って来て頂いている
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前のアセスメント施行 入居後の定期的なカンファレンスの開催		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスの開催 緊急時の突発的なカンファレンスの開催	○	職員だけでは解決が難しい事案など家族参加のカンファレンスの開催
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なカンファレンスの開催 対応が難しい方の場合、家族、Drを含め話し合いをしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体の申し送りは管理日誌に記入し個々の記録は個人記録に記入し情報共有している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームは多機能施設ではない為難しい面がある	○	入居者全員の全ての要望に応じる事は不可能だがなるべく希望に添える様に努力している
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議への参加 定期的な避難訓練の実施	○	メイクボランティアなどの定期訪問
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホーム外でのリハビリなど希望があれば調整している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	毎月の空室状況の連絡 運営推進会議への参加（不定期）		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員付き添いの受診は提携医に限られる事を契約時家族に説明している（提携医以外は家族対応となる）	○	内科・胃腸科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科と提携医契約済み

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医Drは認知症に理解があり職員も気軽に相談できる関係を築いている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	状態変化時など、早急に連絡し指示を仰いでいる		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院時は病院主担のカンファレンスに参加している		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療依存度が高くなってきた時点で家族やDrと相談し方針を決めている	○	終末期ケアは家族の協力無しでは困難な為話し合いを重ねホームでできる事できない事を説明した上で方針を決めている
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームでできる事できない事を家族・Drに説明し理解して頂いている家族の希望に添えない場合もある		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居先へは情報提供している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	フロアでの職員同士の情報提供はイニシャルで話す様にしたり個人のファイルなどはイニシャル表記にしている	○ 個人が特定できるメモ書きなどもシュレッダー破棄している
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	オープンクエスチョン等声掛けに注意している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランに添った上で本人の希望を優先している	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容院にホームに来て頂いたり、メイクボランティアにも来て頂いている	○ 人員配置の面から本人の行きつけのお店に行く事は難しい
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	広告などを見て食事を決めたり出前を注文したり外食したりしている	○ 職員の食事は利用者と一緒にしない
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒の提供は毎日難しいが好みの飲み物など提供している たばこは喫煙ルームのみでお願いしている	○ 喫煙ルームには水入りバケツ・水入り灰皿を必ず用意している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導をし失禁を少しでもなくして頂ける様にしている	○	失禁が無い方など綿の下着の提案をしている リハビリパンツやパット使用を徐々に減らしていきたい
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全員の方の希望通りにはいかないができる範囲で行っている	○	入浴がお嫌いな方もおられ暴言・暴力の対応も工夫している
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的に本人に任せているが昼夜逆転の方は睡眠の管理をさせて頂いている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花壇で野菜作りをしておられる方や洗濯物をたたむ役割を持って頂いたりしている 花札を職員としたりしている	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持していないと不安な方については小額を持って頂いている	○	入居時、家族と話し合う
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出などとはいかなくても庭に出たり、駐車場に出て日光浴をしたりしている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族同伴の外出には規制は設けていない	○	冠婚葬祭への外出支援

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話もでき、ハガキ等も用意している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の規制は設けていない 面会場所は自室でもリビングでも可	○	身元引受人からの要望で面会NGの方がいらっしゃる場合、玄関にて対応させて頂いている
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な会議で議題にあげている	○	高齢者虐待の勉強会をしている 日常においても気配りをしている
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間20時以降は防犯上、玄関の施錠外部徘徊防止の為テラス側の窓の施錠はするが日中は人員配置に問題が無ければ全て開放している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中夜間通して安否確認の徹底		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の行動を把握しながら危険物は取り除いている	○	居室内の危険物は家族と相談し取り除いている
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	食事時、服薬時飲み込みまでの確認 外部徘徊への注意 定期的な避難訓練の実施	○	居室内の芳香剤など誤飲の危険性がある物は、手の届かない場所に置く等工夫している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習の実施 通報訓練の実施 急変時ユニットリーダーへの連絡		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難が必要な災害時は近隣の小学校へ避難予定	○	小学校への避難訓練が出来ていない
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	共同生活や転倒についてのリスクは契約時説明している	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	口頭・管理日誌で対応している	○	緊急時は119番通報
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、名前・日付・飲み込みまでの確認 職員2名によるダブルチェック	○	薬剤説明書を個人ファイルに入れ常時取り出される様にしている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘・排便リズムの勉強会実施 自然排便になる様食事の工夫・軽運動の声掛け		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食事後の口腔ケアの声掛け・介助 希望者には定期的な訪問歯科での口腔チェック		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の管理 ダイエットが必要な方には低カロリー食品等の提供		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	お刺身等提供時は購入時の容器のままで多くの人の手を介さない様にしている 調理毎の消毒の徹底 グローブ使用（使い捨て） 職員出勤時の手洗い・うがいの実施	○	職員が感染症になった時は出勤停止の取り決めがある
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限切れは廃棄処分 調理器具の毎回消毒 調理後2時間経過した物は廃棄処分 中心温度の測定・記録		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花や節句人形を飾っている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内に行事の写真を掲示したり季節ごとの飾りつけをしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所つ くり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽のあたる場所へソファを置いたりしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物をお持ち頂く様お勧めしている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇やエアコンでの調整 湿度調整には濡れタオルや洗濯物の部屋干しで対応している 芳香剤利用 定期的に窓を開け空気の入れ替え		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でもゆったりと行き来ができる 2階建てだがエレベーターが設置してある		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には手作りの表札がかけてある		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階にウッドデッキがあり日光浴など出来るようになっている		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 **グループホーム ニチイのほほえみ倉光 (ユニットさくらんぼ)**

評価年月日 **2009 年 6 月 24 日**

記入年月日 **2009 年 5 月 7 日**

記入者 **管理者** **氏名** **坂 本 昭 恵**

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている ホーム独自の理念をスタッフで考えて決めている 「お客様には真心を笑顔の耐えないホーム」		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる ホーム内に掲示し意識付けをしている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる 契約書に記載してある会社全体としての理念「高齢者の尊厳と自由を守る」は契約時、家族に説明している		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている 散歩に出たりして、挨拶をしたり利用者の方の顔を覚えて頂いたりしている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている 積極的に地域の商店を利用したり運営推進会議などでコミュニケーションを図っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などで民生委員の方から地域の高齢者の方の情報やお困りごとなど情報交換できている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果はホーム会議上でスタッフに伝え改善すべき所は話し合い少しでも改善するように努力している		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度 開催し報告・相談・話し合いをし取り入れるようにしている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明な点などある時など相談している		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者として必要と思われる家族には情報提供している	○	不定期でもいいので勉強をする機会をもちたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で議題にあげ勉強会をし意識を統一している 介護者側の理性の問題なので精神的な部分についても管理者から説明し全員で考える機会をもっている	○	繰り返し会議の議題にあげていく

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	認知症が重度の方の思いをどのように汲み取っていくかが課題
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○	面会時や電話で状況はお伝えしている
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	○	介護業界全体が低賃金の為、離職率が高い仕事内容に見合った待遇になる様会社に訴えていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修は順番に受講している 外部の研修情報は掲示している	○	外部の研修など受講料が高い場合が多いので難しい面もある
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接の施設と勉強会など一緒にしている		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	正社員には年に3日リフレッシュ休暇が設けてある不定期だがホーム全体やユニット毎に食事会をしている ストレス解消法などホーム会議で議題にあげている	○	継続し議題にあげていく、また労働組合でも色々な行事を提案している
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	当日のリーダーを決め責任のある立場におく等している 待遇面ではキャリアアップ制度を実施している	○	キャリアアップ制度の導入で公平さに欠ける事案もある為。会社に交渉していく
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症対応型なので本人というより家族からの相談が多いが本人の不安な思いは入居後しっかりと傾聴している	○	思いを伝えるににくい方もいらっしゃる為工夫が必要
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いや悩みなど話して頂ける様にアセスメント時、十分な時間をとっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅と施設で迷っていらっしゃる家族にはケアマネとも相談し本人と家族にとってどのサービスが一番良いのか話し合い決めている	○	グループホームがその方に適している施設なのか検討している
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居という事に抵抗がある方もいらっしゃるので入院という説明をしている（家族希望時）		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話の中で生い立ちをお聞きしたり昔の思い出の想いを教えて頂いたりしている 利用者の方から学ぶべき所はたくさんある		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	相談・状況報告は常時行い家族と一緒にケアする様に心掛けている	○	精神面のケアは職員だけでは難しい面もあるので今後も家族と協力しあいケアしていきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	両者の仲介役になれる様努力している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の規制は設けていない 利用者あての電話も取り次いでいる	○	入居者の方から家族に電話を掛けたい希望がある時など家族に負担にならない様配慮しながら掛けて頂いている
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相性が合わない方など座席を配慮している	○	入居者同士のトラブルなど職員が間に入り対応している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	お見かけして時など挨拶をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	危険なこと以外は本人の意向に添うようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設なので馴染みの生活という訳にはいかないが趣味や嗜好を把握しケアしている	○	家具など自宅で使われていた馴染みの物を持って来て頂いている
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前のアセスメント施行 入居後の定期的なカンファレンスの開催		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスの開催 緊急時の突発的なカンファレンスの開催	○	職員だけでは解決が難しい事案など家族参加のカンファレンスの開催
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なカンファレンスの開催 対応が難しい方の場合、家族、Drを含め話し合いをしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体の申し送りは管理日誌に記入し個々の記録は個人記録に記入し情報共有している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームは多機能施設ではない為難しい面がある	○	入居者全員の全ての要望に応じる事は不可能だがなるべく希望に添える様に努力している
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議への参加 定期的な避難訓練の実施	○	メイクボランティアなどの定期訪問
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホーム外でのリハビリなど希望があれば調整している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	毎月の空室状況の連絡 運営推進会議への参加（不定期）		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員付き添いの受診は提携医に限られる事を契約時家族に説明している（提携医以外は家族対応となる）	○	内科・胃腸科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科と提携医契約済み

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医Drは認知症に理解があり職員も気軽に相談できる関係を築いている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	状態変化時など、早急に連絡し指示を仰いでいる		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院時は病院主担のカンファレンスに参加している		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療依存度が高くなってきた時点で家族やDrと相談し方針を決めている	○	終末期ケアは家族の協力無しでは困難な為話し合いを重ねホームでできる事できない事を説明した上で方針を決めている
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームでできる事できない事を家族・Drに説明し理解して頂いている家族の希望に添えない場合もある		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居先へは情報提供している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	個人が特定できるメモ書きなどもシュレッダー破棄している
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	人員配置の面から本人の行きつけのお店に行く事は難しい
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○	職員の食事は利用者と一緒にはしない
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	喫煙ルームには水入りバケツ・水入り灰皿を必ず用意している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導をし失禁を少しでもなくして頂ける様にしている	○	失禁が無い方など綿の下着の提案をしている リハビリパンツやパット使用を徐々に減らしていきたい
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全員の方の希望通りにはいかないができる範囲で行っている	○	入浴がお嫌いな方もおられ暴言・暴力の対応も工夫している
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的に本人に任せているが昼夜逆転の方は睡眠の管理をさせて頂いている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花壇で野菜作りをしておられる方や洗濯物をたたむ役割を持って頂いたりしている 花札を職員としたりしている	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持していないと不安な方については小額を持って頂いている	○	入居時、家族と話し合う
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出などとはいかなくても庭に出たり、駐車場に出て日光浴をしたりしている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族同伴の外出には規制は設けていない	○	冠婚葬祭への外出支援

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話もでき、ハガキ等も用意している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の規制は設けていない 面会場所は自室でもリビングでも可	○	身元引受人からの要望で面会NGの方がいらっしゃる場合、玄関にて対応させて頂いている
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な会議で議題にあげている	○	高齢者虐待の勉強会をしている 日常においても気配りをしている
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間20時以降は防犯上、玄関の施錠外部徘徊防止の為テラス側の窓の施錠はするが日中は人員配置に問題が無ければ全て開放している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中夜間通して安否確認の徹底		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の行動を把握しながら危険物は取り除いている	○	居室内の危険物は家族と相談し取り除いている
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	食事時、服薬時飲み込みまでの確認 外部徘徊への注意 定期的な避難訓練の実施	○	居室内の芳香剤など誤飲の危険性がある物は、手の届かない場所に置く等工夫している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習の実施 通報訓練の実施 急変時ユニットリーダーへの連絡		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難が必要な災害時は近隣の小学校へ避難予定	○	小学校への避難訓練が出来ていない
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	共同生活や転倒についてのリスクは契約時説明している	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	口頭・管理日誌で対応している	○	緊急時は119番通報
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、名前・日付・飲み込みまでの確認 職員2名によるダブルチェック	○	薬剤説明書を個人ファイルに入れ常時取り出される様にしている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘・排便リズムの勉強会実施 自然排便になる様食事の工夫・軽運動の声掛け		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食事後の口腔ケアの声掛け・介助 希望者には定期的な訪問歯科での口腔チェック		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の管理 ダイエットが必要な方には低カロリー食品等の提供		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	お刺身等提供時は購入時の容器のままで多くの人の手を介さない様にしている 調理毎の消毒の徹底 グローブ使用（使い捨て） 職員出勤時の手洗い・うがいの実施	○	職員が感染症になった時は出勤停止の取り決めがある
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限切れは廃棄処分 調理器具の毎回消毒 調理後2時間経過した物は廃棄処分 中心温度の測定・記録		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花や節句人形を飾っている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内に行事の写真を掲示したり季節ごとの飾りつけをしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所つ くり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽のあたる場所へソファを置いたりしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物をお持ち頂く様お勧めしている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇やエアコンでの調整 湿度調整には濡れタオルや洗濯物の部屋干しで対応している 芳香剤利用 定期的に窓を開け空気の入れ替え		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でもゆったりと行き来ができる 2階建てだがエレベーターが設置してある		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には手作りの表札がかけてある		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階にウッドデッキがあり日光浴など出来るようになっている		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)